

目黒稲門会会報



(題字: 眞仁田 勉 初代会長)

第104号 2024年9月

★★ 設立25周年 記念号 ★★

事務局: 〒153-0065 目黒区中町1-33-2 Tel: 03-6789-6549

発行人: 川崎 秀一 編集長: 細谷 清 事務局長: 伊東 佳行

ホームページURL: <http://me96tomon-waseda.la.coocan.jp/>

設立 25 周年記念総会・祝賀会を開催

2024年7月7日(日)、ホテル雅叙園東京で第25回定時総会が開催されました。

当日は、早稲田大学理事若尾真治様、校友会事務局東京都23区地域担当部長松本祐幸様、東京都23区支部・支部長吉田誠男様、同副支部長志村博司様、大田稲門会・会長安田伸商様、品川稲門会・会長松井博之様、渋谷稲門会・会長金子秀治二様、杉並稲門会・副会長若菜 茂様、世田谷稲門会・会長旭 正勝様、港稲門会・会長益子通夫様、目黒三田会・会長安川 健様、同副会長鴨志田リエ様にご臨席頂きました。

出席者総数は77名でした。

事長: 吉野博明事務局長、事務局長: 伊東佳行副事務局長)が示され、承認されました。



議事審議

<総会>

午後4時、田添麻友幹事の司会により開会。



司会: 田添麻友幹事

まず川崎会長より挨拶があり(別掲)、続いて若尾真治早稲田大学理事より来賓挨拶がありました。



川崎秀一会長



若尾真治理事

総会の議長に小杉哲副会長が選出され、(1)2023年度事業報告、(2)2023年度決算報告、監査報告が報告され、満場異議なく了承されました。続いて、(3)2024年度事業計画案、(4)2024年度予算案が提案され、異議なく承認され、最後に(5)会則の一部改定案(銀行口座および行動規範の追加、および(6)役員構成案(新任幹

議事終了後、早稲田大学校友会松本祐幸東京都23区地域担当部長、吉田誠男東京都23区支部長より来賓として挨拶がありました。



松本祐幸
23区地域担当部長



吉田誠男
23区支部長

「設立 25 周年事業協賛金」 寄付御礼

35名より287千円の寄付をいただきました。

皆様のご協力ありがとうございました。

協賛いただいた資金は、設立25周年記念事業に充当し、当会の一層の今後の発展のために有益に使用させていただきます。

＜川崎会長挨拶＞

お忙しいところ、25周年記念祝賀会にご出席を頂き有難うございました。また、本日は先ほど司会から紹介が有りました様に、数多くのご来賓の方々にお越し頂き有難く、高い席から恐縮ですが改めて御礼を申し上げます。

さて、目黒稲門会はお陰様で2024年1月を以て、発足25年目を迎えました。これまで会の運営に携わって来られた役員の皆様、そして各部会活動に参加して頂いた会員の皆様のお陰と感謝致します。設立当初からの会員の皆様にとっては、あつという間の25年だったかもしれません。とは言え、四半世紀でありこの間色々な出来事があったことと思います。

設立発起人の一人であった浅海相談役からお話を聞いている方も多いたと思いますが、東京都23区の中では設立が遅い方で、同じ年に大田や港など幾つかの稲門会が設立されました。早稲田大学校友会としては東京には校友が多いので各区に一つずつ稲門会が有っても良いとの判断だったと思われまます。お陰様で早稲田大学の仲間という共通基盤でつながったコミュニティーがこの目黒区にも出来た訳であります。

社会で現役としてばりばり働いていた方々が定年を迎え、ふと立ち止まって見ると仕事以外の人との繋がりがや自分が住んでいる地域との繋がりが希薄である事に気が付きます。そんな時に、早稲田の仲間と一緒に好きな事をやって楽しんでいる稲門会活動を知った時に、何か安らぎを感じるのではないのでしょうか。かく言う私もその一人でありました。お陰様で充実した生活を送っていると思っております。

目黒稲門会の人数は余り多くありませんがこじんまりと纏まっており、活発に部会活動を行い老若男女会員各位が親睦を深めております。時代の変化の中で、高齢化が進んでおりますが、まだまだ皆様お元気に活動しており大変うれしく思っております。設立当初から参加されている会員の皆様は今も元気に色々な部会で活躍されているのは素晴らしい事だと思っております。さはさりながら、60歳代の新規会員も徐々に増えており、少しずつではありますが世代交代も始まっております。もちろん、部会活動も若い方々も参加しやすい工夫を凝らすなど、次の10年に向けて変革も行っている所であります。いずれにしても、早稲田大学と言う太いルーツを持つ会員各位がこれからも目黒稲門会のモットーである「明るく、楽しく、元気よく」これからも楽しく参加し過ごして頂けるように役員一同努力していく所存であります。

また、今日ご出席の第三ブロックの各稲門会とも交流活動もできたら良いと思っております。会長会でも

議論しておりますし、目黒稲門会役員会でも議論しております。

世田谷、杉並の稲門会は各三田会との交流も盛んであると伺っております。目黒も目黒三田会との交流も出来ればうれしく思うところでもあります。いずれにしましても、会員の皆様のご協力を引き続き宜しくお願い致します。

今日はプログラムが目白押しであります。私の話はこの位にして、総会終了後のアトラクションである早稲田大学ナレオ稲門会の演奏、そして早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会の皆さんの舞踏をお楽しみ頂きたいと思っております。

最後になります。今日ご出席の皆様のご健勝、そして目黒稲門会、各稲門会並びに目黒三田会の益々の発展を祈念し私のご挨拶とさせていただきます。

有難うございました。

＜祝賀会＞

休憩後、懇親会のアトラクションでは、早稲田大学ナレオ稲門会および早稲田大学ハワイ民族舞踊研究会のメンバーの皆さんが登場。見事な演奏、舞踏を披露し、華やかな空間を演出してくれました。



ナレオ稲門会



ハワイ民族舞踊研究会

休憩をはさんで志村博司東京都23区支部副支部長の発声で乾杯、歓談となりました。

その後、ボランティア部会の募金のお願い、早稲田祭2024運営スタッフによる早稲田祭2024開催アピール、新任幹事・部会長・世話人、新入会員の紹介があり、「音楽を楽しむ会」によるプレゼンテーションがありました。



志村博司 東京都23区支部副支部長



新入会員紹介
左より 清原氏、齊賀氏、鈴木氏、渋谷氏

盛会の中、松田哲也会員の指揮で校歌を斉唱。最後は吉野博明幹事長の中締めでお開きとなりました。



校歌指揮 松田哲也会員



早稲田祭2024開催アピール



中締め
吉野博明幹事長



集合写真

25周年を振り返って

1. 設立総会



1999年1月 眞仁田勉初代会長（右上）

(2010年2月 八幡和三郎会長ご逝去
浅海敏之会長代行就任)

2. 2004年7月 第5回総会



2004年7月 第2代加藤栄吾会長（右）

5. 2010年7月 第11回総会



2010年7月 浅海前会長代行と第4代大野利幸会長（右）

3. 2008年7月 第9回総会



2008年7月 第3代八幡和三郎会長（左）

6. 2014年7月 設立15周年記念総会・懇親会



2014年7月 第5代吉田博行会長（右）

4. 2009年7月 設立10周年記念総会・懇親会



10周年記念総会・懇親会



目黒稲門会 15年の歩み」上映



10周年記念
展示コーナー

@こまば
エミナース



バグパイプ演奏

7. 2018年7月 第19回総会



2018年7月 第6代後藤克彦会長(右)

9. 2022年7月 第23回総会



2022年7月 第7代川崎秀一会長(左)

8. 2019年7月 設立20周年記念総会・懇親会



「目黒稲門会20年の歩み」上映

10. 2024年7月 設立25周年記念総会・祝賀会



会場風景



めぐろオヤジフォーク



早稲田祭2024運営スタッフ



ビンゴゲーム大会



ナレオ稲門会&ハワイ民族舞踊研究会

30周年記念年へ向けて

金井豊男（1966年 理工・電気通信）



私が目黒稲門会に入会したのは、目黒区立六中の同じクラスの吉田博行相談役（当時事務局長）に誘われ、2012年2月に68歳で勤めを辞めた時でした。

最初に参加した部会は、ウォーキング部会で2012年10月16日に開催された「筑波山」でした。以来、囲碁、俳句、カラオケ部会以外の部会活動にはほとんど参加して来ました。これらの部会活動に参加できたのは、勤めを辞めて時間的に余裕が出来、健康に恵まれてきたからです。

2013年6月発行の会報第59号で「今年式年遷宮を迎える伊勢神宮を訪れて」という記事を投稿しましたが原稿レイアウトがほとんど手直しの必要がなかったため、地田博昌相談役（当時編集長）に見込まれて編集委員になりました。また、HPおよびメール配信を担当していた小杉副会長（当時事務局長）より健康上の理由により引継ぎました。HPは、経験してこなかった事でしたが2016年7月に全面リニューアルし、その後改良を続け現在に至っています。HPおよびメール配信は、正確性と速報性に心がけてきました。

これらを背景に2018年7月より事務局長に、2019年7月より幹事長に就任、2024年7月に幹事長を退任しました。

幹事長時代で記憶に残っていることは、①設立15周年、20周年、25周年を記念する総会を開催した事、②2020年初～2022年秋の新コロナ禍を経験した事、③2022年度決算で繰越金が大幅に激減した事、等です。会員の皆様には大変ご協力頂き感謝申し上げます。

さて、「30周年記念年へ向けて」ですが目黒稲門会のモットーである「明るく、楽しく、元気よく」は継続しますがこのモットーに「皆で担ごう目黒の神輿」を加えたいと思います。

目黒稲門会の会員構成は、90歳代7名、80歳代32名、70歳代37名、60歳代18名、50歳代15名、40歳代13名、30歳代9名、20歳代5名（平均年齢65.9歳、女性会員率20%）となっています。

5年後を考えると70歳以下の新入会員（特に女性会員）の加入を増やすと共に会員の活性化が必要です。活性化の為には、土日祝日の部会開催をもっと多く持つこと、世話人制度の導入が必要です。

会の運営は、皆で目黒稲門会を担いで特定の人たちだけに大きな負担をかけないことが必要です。

幹事長就任に際して思うこと

吉野博明（1970年 法学部）



この度、第25回総会での議決を経て幹事長を仰せつかりました吉野博明です。改めてご支援、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

また、2019年の総会で事務局長を就任して以来5年間、事務局の皆様並びに、会員諸氏のご協力とご指導、特に金井前幹事長には、手取り足取りリードしていただき、この場を借りて心から御礼申し上げます。

この数年は、コロナ禍による活動中断や、その間に進んだ世代交代が上手く繋がらず、休止する部会も出てきました。

昨年度あたりから三役の間で、「部会長制では負担感が大きいのではないか」、「世話人制などを導入して、複数の会員が会の運営にかかわる形を考えてもよいのではないか」、との議論がありました。

そうした中、今年初めに広井・山内両代表世話人が音頭を取って発足した「音楽を楽しむ会」では、当日集まった会員の中から、何人もアイデアをもってリードしてくれる方が出てきて、シーンごとに入れ代わり立ち代わり参加者を引っ張っていました。親睦団体としての、新しい活動の形が見えてきた思いがします。

「部会」や「会」などの固定的な集まりだけでなく、自然発生的に「今度、こんな演奏会があるから、一緒に行かない?」、「こんな庭園が雑誌で紹介されていたが、一人では億劫だけど、一緒に行こうよ!」など、一度限りの集まりを増やしていく切っ掛けが増えればよいと思います。

今回HPに様々な企画情報を紹介するコーナーを新設しました。従来から会員の方が出版された書籍とか、出品される展覧会の情報などを周知する良い方法がないかと悩んでいました。

よくよく考えると、このようなコーナーを利用して、会員の方々のアイデアを募り、自由な集まりの起点になる可能性があるのではないかと期待しています。それが緩い集まりとして継続してくれるなら、目黒稲門会の新しい展開にもなるでしょう。

最近の新年会や総会では、数十名の会員の皆様に当日の様々な役割を快く担っていただいています。皆で盛り上げて楽しむ目黒稲門会を目指して、会員の皆様が自由闊達に参加するような運営のために、微力ながら努めてまいりたいと存じます。

誰もが楽しめる目黒稲門会に



伊東 佳行 (1980年 法学部)

第25回総会の議決を経て新たに事務局長に就任致しました伊東佳行です。

私は2022年6月に入会してまだ2年程でようやく目黒稲門会のこと判り始めたところです。楽しく活動に参加させていただいている分少しでもお返しができればと考えています。

3年前に退職して目黒区に転居した際、「これからは家族・友人・地域をキーワードにしよう」と決めました。ところが、地縁のない私は友人もいなければ地域の事情もわかりません。そこで以前住んでいた地域でお誘いをいただき関心を抱いていた稲門会の扉を叩くことにしました。目黒区の同窓の方との交流は私の期待をはるかに超え、今や妻も家族会員として部会活動に参加させていただいて、家族・友人・地域のキーワードが完結しています。目黒区への愛着も芽生えてきました。

さて、活動に参加していて気になることがあります。それは参加者が私のように退職した男性が中心になっていることで、諸先輩や私が辿ってきた男性・仕事中心の社会の延長線にあるように感じられました。

今キャンパスに行けば驚くほどたくさんの女子学生が男子学生とともに学んでいますし、彼女ら彼らは社会に出てからも同等に活躍する時代となりました。職業生活の放課後の長さも過ごし方も様々になって行くものと思われれます。目黒稲門会も会員は二十代からと幅広く、女性の会員も増えつつあります。生活のスタイルは十人十色でしょう。社会の変化とともに今後会員の多様化は進みますし、進めなければなりません。

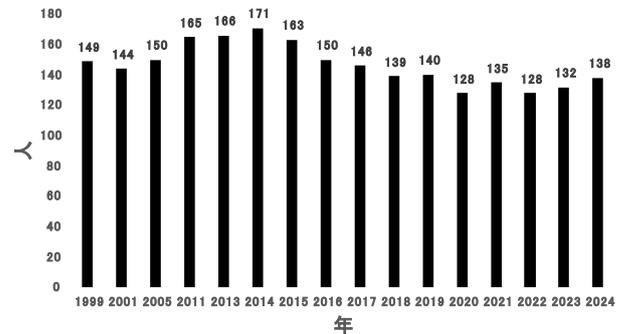
多彩な会員のニーズはどのようなものでしょうか、ウイークデーや週末に行っている部会活動やイベントのあり方はどうして行けばいいのでしょうか。すぐには解に辿り着けませんが、30周年更にはその先に向けて問い続けることが大切だと考えます。そのためには会員のみなさまからの率直なご意見が欠かせません。目黒稲門会に期待すること、やってみたいみたいことなど「こんなのいいな」の声を事務局にお寄せいただければ幸いです。私も折々にお聞きしたいと思います。

目黒稲門会は友人と地域のキーワードで交流できる最高の場です。これからも沢山の会員が参加し楽しく活動できる会として盛り上げてまいりましょう

データで見る目黒稲門会 25年の歩み

・会員数の推移

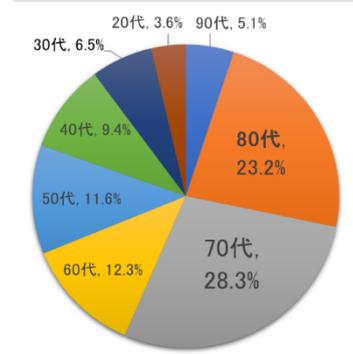
創立時は149名で2014年に171名となり、その後は落ちましたが、ここ3年間は漸増傾向にあります。



・年齢構成

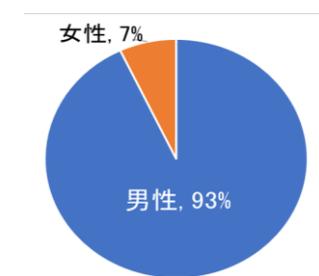
(2024年7月現在)

20~40代が19.5%、50~60代が23.9%、70代以上が56.6%を占めております。

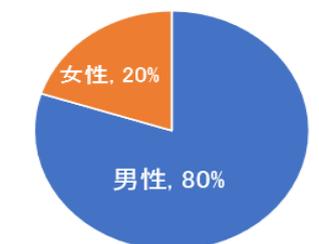


・男女比

女性会員数は25年間で、約3倍に増えました。



1999年4月



2024年7月

各部会からの案内・報告

俳句部会

第168回「俳句部会報告」

日時 2024年7月8日(月) (順不同)

川井素山	紫陽花や 河童の里の 遠囃子
保井寶正	湯上の 五感のほてり 削氷
佐久間喬	老ひたれど 峠越へたり 汗しとど
丸山酔宵子	茜射し 万緑映す 鳩の海
吉田啓悟	益荒男のような 夏雲立つ 銀座
青木英林	片陰を 求め行先 廻り道
山本草風	風そよぎ 棚田に遊ぶ 夏の雲
佐久間たか子	山開き 残雪の宮 ころろざす
渡辺鯨波	半夏生 口から漏れる 阿弥陀像
後藤克彦	指す指に 小休止する 赤蜻蛉
原 晶如	禪の孫の 尻抱く 夏祭
中村双月	カラカラと 入道雲の 笑ひをり

中原主宰の選んだ秀句と評

紫陽花や 河童の里の 遠囃子

遠野の里に伝わる河童が棲むという川に祭囃子が遠く聞こえてくる景

益荒男のような 夏雲立つ 銀座

高い建物に囲まれて空が小さい銀座で見上げると入道雲があるという着眼点が良い

半夏生 口から漏れる 阿弥陀像

半夏生とは夏至から数えて11日目を指すが、片白草(半夏生)がこの頃に葉が白くなり花穂が脇に生ずることと、六波羅蜜寺の空也上人の口から小さな仏像が現れる姿を重ねている

俳句部会長 佐久間 喬

囲碁部会

5月26日に参加者8名で終了した25期上期第1ラウンドは、1位市川、2位永田氏、3位塩崎氏でした。

6月1日開催の第21回オール早稲田囲碁祭に目黒より4名参加、目黒はCクラス3連勝で優勝、市川は3連勝賞をいただきました。

6月6日(木)に設立25周年記念トーナメント戦を「あごわん真珠」で開催、優勝蠣崎氏、準優勝菊地氏でした。

7月18日(木)に7月定例部会を「あごわん真珠」で開催、優勝保井氏、準優勝永田氏、蠣崎氏でした。参加者8名。

7月28日(日)に参加者8名で終了した25期上期第2ラウンドは、1位市川、2位塩崎氏、3位小倉氏でした。なお、市川は完全優勝を達成。

囲碁部会長 市川 亘

音楽を楽しむ会

第4回は5月18日(土)、上目黒住区センターで開催、参加者は16名でした。大人のリズム遊びで、数え歌、手遊び(セブンスステップ)を行いました。

全員楽器参加で楽しもう!ということで、参加者全員で、カスタネット、タンバリン、ギロ、クラベス、カウベルなどの楽器で演奏しました。今回も皆で3曲合唱しました。

梶さんによる
ハーモニカ演奏

フリータイム演奏では、梶さんによるクロマチックハーモニカ演奏「セレナーデ」が披露されました。この後ハモりに挑戦する指導が小出世世話人よりありました。

声を出し身体を動かすことは、長生きの秘訣です。是非、あなたも、いらっしやいませんか?

6月15日(土)第1回音楽を楽しむ会(カラオケ分科会)をコートダジュール学芸大学西口店で開催しました。参加者9名。新コロナ禍後、初めてカラオケを楽しみました。



第1回カラオケ分科会

第6回は6月30日(日)、上目黒住区センターで開催、参加者は14名でした。ボイストレーニングおよびボディリズムの後、7/7開催総会に向けて2曲合唱練習を行いました。大人のリズム遊びで、数え歌、手遊び(セブンスステップ)を行いました。

7月23日(火)第2回音楽を楽しむ会(カラオケ分科会)をコートダジュール学芸大学西口店で開催しました。参加者8名。

音楽を楽しむ会代表世話人 広井 幹也
カラオケ世話人 菊地 崇之

いち月会



7月定例部会

5月7日の定例部会は、梅山飯店で参加者は10名でした。6月3日の定例部会は、梅山飯店で参加者は13名でした。7月1日の定例部会は、自由が丘デパート

2F「味の一番」で、参加者は12名(初参加者:加瀬さん)でした。

いち月会部会長 菊地 崇之

ウォーキング部会

「群馬の湿原・多々良沼を訪ねる」

(2024年6月19日) 参加者11名

長距離移動のため、最寄り駅の渋谷駅ハチ公口改札外に午前9時半いつもより随分早く集合し、意気揚々と湘南新宿ラインのホームへ向かった。

豈図らんや、湘南新宿ライン、埼京線など北行き電車は軒並み30分強の遅れ。直ぐに来た宇都宮行快速に取りあえず乗り込み、乗継ぎのJR久喜駅を目指した。車内は結構混んでいたが、新宿、池袋と過ぎる度に空いてきて、みな無事座席につくことができた。久喜駅で東武伊勢崎線に乗継ぎ、群馬県館林駅を目指す。別の駅からJRに乗ったはずのメンバーに電話を入れると、一本後の電車に乗っているらしいと分かり、バスに間に合うか心配する。東武伊勢崎線は時間通り。駅前から出るコミュニティーバスの運転手さんが親切で、発車2分前に遅れて着くメンバーを待ってくれたので、全員揃って目的地に向かうことができた。



コミュニティーバス

多々良沼公園近くのバス停で下車し、公園の中を散歩しながら公園管理事務所前の木陰のベンチを見つける。ここで持参した昼食をとり、沼に沿った散策路を



公園管理事務所前のベンチ

ゆっくりと歩いた。ベンチの前には、沼の向こうに日光連山や赤城、榛名、浅間の山々の説明図があった。

あいにくの薄曇りのためかすかに稜線が見えるだけだった。多々良沼は、古利根川に運ばれた砂鉄がこのあたりで砂丘を形成し、「たたら製鉄」が盛んになったことが由来だそうだ。館林市付近には、多々良沼(実りの沼と言われ、麦文化や川魚食文化を支える大きな沼)、城沼(じょうぬま、館林城の外堀)、茂林寺沼(祈りの沼と言われ、分福茶釜で有名な茂林寺にある)、その他大小の沼が一括りに館林市の「里沼」として文化庁による日本遺産に指定されている。

砂丘に生えるアカマツ林を横目に見て道路を北に渡ると、見事な白アジサイの群落がある。その先には見



白紫陽花群落



日向漁港

この辺では有数の釣り場だそうだ。

ここから少し戻って、漁港に流れ込む多々良川沿い、木陰の道をさわやかな風に吹かれながら辿る。目指すは「群馬県立館林美術館」。15分ほどでたいそう立派な美術館につく。何よりも広い芝生、レンガ風の壁とガラス張りの広い窓など、外から遠望しても、内側から眺めても素晴らしく調和のとれた建物だった。



群馬県立館林美術館

全自動芝刈りロボットも皆の注目の的だった。開催中の「アート・オブ・シンフォニー イメージと素材の饗宴」を見学。横尾忠則、福田美蘭、勅使河原蒼風、アンディ・ウォーホル、ピカソ、デュフィなどの作品に混じって、清水征博(京都・清水焼窯元八代目清水六兵衛)のダイナミックな陶芸作品が印象に残った。1979年早稲田大学建築学科卒業後、陶芸の道に入ったそうだ。

美術館前から再びコミュニティーバスに乗り、館林駅で電車に乗り渋谷を目指した。往復約5時間の電車とバスの旅。皆一様に乗り疲れ、座り疲れを感じながら、道玄坂パンダレストランでのどを潤したのち解散した。

ウォーキング部会長 吉野 博明

麻雀部会

6月17日(月)に第93回定例会を権之助坂“華”にて開催しました。高齢化が進み、人が集まりにくくなっており今回も2卓8名での対戦でした。

優勝は村上、2位は宮村氏、3位は岩本氏でした。

次回は8月19日を予定しております。

麻雀部会長 村上 柁

女性企画ランチ

6月8日(土)、女子会企画での雅楽鑑賞会には、家族会員を含む5名が、めぐろパーシモンホールに集いました。

管弦演奏・舞楽を楽しむだけでなく、龍笛や打物の楽器体験、舞の指導もあり、好奇をくすぐる内容でした。



舞の指導

平安の調べに心を寄せたあと、市瀬さんのご自宅に移動してお茶会のスタート。ケーキを囲んでの話は尽きず、日が暮れる前に続きはまた次回と約して、お開きとなりました。

女性企画ランチ幹事 瀬下 智子

スポーツ観戦部会

2024年6月2日(日)、六大学野春季リーグ戦早慶二回戦を観戦しました。18名参加。

前日の早稲田大圧勝

(8対1)に続き7季ぶりの優勝に臨んだ早慶2回戦、早稲田大が慶應



義塾大を12対2で下し、7季ぶり47回目の優勝を決めた。試合は4安打3打点を記録した尾瀬外野手(帝京：3年)を始め、この日も打線が爆発した。9回2死になるとエースの伊藤樹投手(仙台育英：3年)が登板。最後のバッターを三ゴロに打ち取った瞬間、選手たちはマウンドに集まり歓喜を分かち合った。

試合後の反省会で、優勝を祝い、美味しいお酒を酌み交わしました。

スポーツ観戦部会長 狩野 俊夫

食べ歩き部会

2024年8月3日(土)、昨年に引き続き納涼ビアパーティーを「Schmatz 中目黒店」で開催しました。



猛暑の中、学生・若手校友11名を迎えドイツ・クラブトビールを飲みドイツ料理を食べ

ながら楽しい一時を過ごしました。参加者27名。

世話人 金井 豊男

ボランティア部会

6月6日(木)、区内でひときわ高くそびえ立つ煙突が目印の目黒清掃工場を見学しました。目黒清掃工場は、2023年3月15日に竣工、最新技術を導入した清掃工場です。参加者15名。



焼却炉



参加者の皆さん



7月5日(金) 目黒川沿道清掃を行いました。参加者8名

ボランティア部会長 小杉 哲

会員の広場

目黒に住んで

後藤 克彦 (1967年 文)



豊後から江戸生活

私が生まれた昭和十八年当時、人口も少なく何か有名な名所や工場があるわけでもない九州の田舎？大分出身です。しかし、知る人ぞ知るキリシタン大名にして西日本でも指折りの太守であった大友宗麟（義鎮）の所領地—豊後で、本拠は府内（大分）であった。宗麟にちなむ名所はほとんどなく、駅前に宗麟の銅像があるのみである。

我が家は府内城のすぐ近くにある住宅地にあった。近くには温泉で有名な別府や猿のたくさんいる高崎山、荒波を見ることもない静かな別府湾。よく海岸で魚釣りして鯖や鰹を獲っていました（今では有名な関鯖、関鰹）。高校は大分川の近くにある県立大分舞鶴高校で、一年生の時はラグビー部（補欠で花園に行きました。）、二年生から美術部へ。



高校時代の花園ラグビー場で

画家を目指して志望大学のある東京へ。当時の急行—高千穂は蒸気機関車で23時間もかかり、品川駅に着いた時にホームに雪が降っていたのが良い思い出でした。美術部の実技試験（デッサン）で評価？されずに浪人になり、従兄弟の住んでいた大田区雪谷からデッサン勉強の予備校へ。次の年も同じ結果で早稲田大学入学後に新宿区戸山町の下宿へ。四年生になり、杉並区上井草の下宿へと流れ流れの生活でした。四年生の夏休み前に就職先が決まって、少し未来がある東京生活に心弾みました。

練馬から南つくし野へ

就職先は六本木にあるM電器の宣伝研究所へ。コピーライター（当時は文案家）として入社。有名なイラストレーターや小説家を輩出して、自由な雰囲気のある会社で、楽しい毎日でした。結婚後は練馬区関町のアパート生活で、少しゆとりができて子供二人が伸び伸び成長できる環境を考えて、田園都市線の南つくし野に家を建てることにしました。当時は駅のまわりは空き地だらけで、若い同年代の世帯が多く、広い公園もあり、明るい未来を夢見る家庭で一杯。私は十年後にサラリーマン生活を辞めて独立。海外出張も多

くなり、羽田空港へ行くのに少し不便を感じ、交通便利なところに引っ越すつもりで都内の土地を探している時に知人から良い話がありました。

目黒区平町から鷹番へ

都立大学駅近くにある平町二丁目の某会社の社宅跡地を購入。家の前には某銀行役員寮、すぐ側には大分県職員寮もある良い環境です。環七で羽田空港へは便利であるだけでなく、赤坂にあるオフィスにも中目黒乗り換えで30分。自由が丘への買い物は歩きで、休みの日には多摩川まで。便利で楽しい街でした。

六十二歳過ぎてそろそろのんびりした生活を考えると、車でなく電車での生活中心にと決心。不動産会社に急行が止まる駅近くの土地を探してもらった。都立大学駅の隣の学芸大学駅近くにある鷹番に土地を購入。何と平町から歩いて三十分ぐらいと近くビックリ。家内に平町時代の友人達（目黒区のボランティア仲間）と今でもお付き合いできて喜んでいます。



学芸大学東口商店街

目黒住民として目黒稲門会へ

六十四歳の時に早稲田大学から創立百二十五周年の募金活動苦戦中なので協力して欲しいとの連絡をいただき、総長室に呼ばれました。総長室参与として企業経営者への説得活動。当時、会社の株全てを某企業に売却して特別顧問として、暇を持て余していました。

大学から目黒稲門会があるので入会したらいかがですかとアドバイスをいただき、目黒稲門会事務局には是非入会させていただきたいとお願いし、無事？（面接試験無し）に入会できました。

数年後には美術歴史鑑賞部会長として、楽しい絵画展等の鑑賞会を企画実施。会報の原稿書きするため目黒区にある全ての馬頭観音や有名な坂道、大使館巡り等をしながら目黒生活を楽んでいます。



大使館巡り
(ガボン大使館)

家の近く五本木には、同じ歳の吉田博行さん、金井豊男さんが住まれて幹事会やウォーキング、ボランティア等でも行動をご一緒させていただいております。

会員ギャラリー

『大谷翔平』 水彩画 113cm x 229cm
佐伯 文子 (1976年 二文)



WBC 優勝、エンジェルス時代の 2023 年の輝かしい活躍の二刀流大谷翔平の 9 等身の美しい体格、人間性も立派な大人気で赤のユニフォームと兜姿の 193cm の等身大を描きました。

バットの中心とボールの中心があたる何とも

気持ちの良い圧巻の「カーン!!!」という快音と共に「やった!!!」という感動で観衆を魅了する大谷翔平を描き、みんなに祝福されハイタッチする姿を、野球グラウンドを背景に祝福されている手を一杯描きました。「感動をありがとう!!! 元気を一杯もらってありがとう!!!」

『北アルプス 槍ヶ岳』 水墨画 F6
牧野 武夫 (1965年 理工)



昨年の暮れから体調を崩して現在歩行訓練中です。この作品は旅行ガイドブックより採用しました。ところで、今は水墨画の同好会を開催しています。初心者の方は大歓迎です。一報ください。

新入会員

川島 一晃 (かわしま・かずあき) 1980年 商



江東区大島在住

1980年卒業の川島と申します。米国に居住しておりました5年ほど前に頭の血管が切れてしまい、若干足が不自由になってしまっておりますが、こりずに飲み歩いております。

皆様よろしくお願い致します。

池上 信雄 (いけがみ・のぶお) 1972年 理工・工業経営



目黒区碑文谷在住

目黒区碑文谷の生まれで、卒業後は富士通㈱に就職しましたが、その後同社を経て一昨年勤めを辞め、家業のアパート賃貸業に専念しています。再婚で子供が10歳と小さいので、まだ仕事は続けています。よろしくお願ひします。

長谷川 直子 (はせがわ・なおこ) 1998年 人間科学部



目黒区中目黒在住

昨年的高校野球夏の大会で慶応三田会の結束する姿をうらやましく見ておりました。別件で雅叙園に行った際、稲門会のパーティが開催されて

いるのを偶然見かけて目黒稲門会の存在を知りました。

目黒に住み始めて14年、自宅で行政書士&司法書士をやっております。

校友会年会費の納入のお願い

目黒稲門会正会員は、早稲田大学校友会の会員資格を有する方となっておりますので、目黒稲門会年会費に加え、校友会年会費の納入をお願いします。

校友会費の用途については、早稲田大学校友会 HP の事業、会員サービスを、年会費納入方法については、早稲田大学校友会年会費・納入方法をご覧ください。皆様のご協力をお願い致します。

編集後記

酷暑と集中豪雨、そしてパリオリンピックが2024年の夏でしょうか。そのパリでは校友がフェンシング・レスリングでメダルを取る活躍をしています。

会も25周年総会に加え各部会も、若いも若きも、暑さに負けず、コロナにも負けずに頑張っている、そんな元気な姿を掲載した会報をお届けします。(細谷記)